

動物実験による糖尿病患者への服薬指導のためのPBLチュートリアル

○山越 美幸¹, 稲葉 二郎¹(¹東京薬大薬)

【目的】長期実務実習終了後の5年次に対して、「糖尿病治療における薬剤師の役割」に関してPBLチュートリアル(以下PBLT)を昨年度行い、非常に好評であった。そこで、今年度実績も含めて報告する。本PBLTでは、糖尿病モデルマウスを使用し、「薬物の効果」および「サプリメントの影響」、「低血糖における緊急時レスキューの効果」を実体験することによって、知識・技能・態度を醸成することを目的とした。

【方法】長期実務実習終了後の5年生に対して①KJ法による実務実習で経験した服薬指導での問題点の抽出, ②SU薬、 α GIの効果, ③サプリメント(桑の葉ダイエット:KHD)の効果, ④ α GIとSU薬服用による低血糖から回復できる飲料水(カルピスウォーター: CW、コーヒー:GG、ポンジュース:PJ)について, ⑤報告会を行った。②~④に関しては、正常マウスと糖尿病マウスを用いて、グルコースまたはスクロース、飲料水の経口糖負荷試験を行った。

【結果・考察】昨年度の結果について記載する。問題点の抽出では、2次元展開法で最優先課題を決めた。その結果、「コンプライアンス不良」「低血糖時の対処法」「副作用」「糖尿病の理解不足」が挙げられた。学生は、少なからず服薬指導において副作用や低血糖対策の説明時に不安を持っていることが判った。実験的に、サプリメントの効果や低血糖対策などについて検討した。KHDはサプリメントであっても α GIの効果を持っていることが確認できた。このことから、服薬指導時に、副作用への対応方法を伝えることやサプリメント等の服用状況の確認の重要性を実体験することができた。アンケートから、学生から「動物実験によって知識の定着ができた」「服薬指導に役立つ知識であった」等の意見が得られた。以上より、動物実験を用いたPBLTは、体験学習型の教育として、知識を定着させる優れた方法であると考えられた。